

# 薬用植物園だより

2024年

5月

朴葉焼き・朴葉味噌は葉、漢方では樹皮を用います **ホオノキ** (モクレン科)



*Magnolia obovata* Thunberg

部位	樹皮
生薬名	厚朴 (コウボク) <b>局方収載</b>
成分	マグノロール (ネオリグナン)、マグノクラリン (ベンジルイソキノリンアルカロイド)
薬理	健胃作用、中枢抑制作用、筋弛緩作用
適用	理気薬 (上逆する気を降下させる)
漢方	半夏厚朴湯、平胃散など

日本固有種で、北海道から九州に分布する落葉高木。樹高が20mになることもあり、芳香を放つ大きな花は枝先につけることから間近で観察することは難しい。しかし、当園では斜面に植栽しているので、観察しやすい。強靱で大きな葉を料理に使い、朴葉味噌や朴葉焼きは有名です。樹齢20年以上の野生の樹皮を採取し、生薬「厚朴」として使用されます。野生種を使用するため、利用と保護のバランスが大切です。漢方生薬では、その作用にベクトルが存在し、厚朴は「下向き」に作用すると考えられてきました。胃食道逆流症 (逆流性食道炎など) は、プロトンポンプ阻害薬 (PPI) を中心とした制酸薬による治療がほぼ確立されていますが、不定愁訴も多く、漢方薬の半夏厚朴湯などが補完的に利用されています。

## ウツボグサ (シソ科)

*Prunella vulgaris* Linné var. *lilacina* Nakai

部位	花穂
生薬名	夏枯草 (カゴソウ) <b>局方収載</b>
成分	ウルソール酸、オレアノール酸 (トリテルペン) カリウム塩を多く含む
薬理	利尿作用、抗炎症作用
薬能	清熱薬
漢方	日本では、主に利尿薬として利用

初夏に美しい花、夏には枯れる？



日本、朝鮮半島、中国、シベリアなどに分布する多年草。和名は、花穂の形が武士の弓矢入れ道具、鞆 (うつぼ) に似ていることに由来しています。生薬としては、花穂が用いられ「夏枯草」と呼ばれます。これは、7月から8月になると写真右のように花穂だけが枯れたようになることに由来しています。日本では民間的に扁桃腺炎 (うがい) や利尿薬 (内服) として全草を利用してきました。一方、ヨーロッパでも、セイヨウウツボグサ (*Prunella vulgaris* L. subsp. *vulgaris*) をセルフヒール (self heal 自然治癒) と呼び、消炎、利尿、止血などを目的に用いられてきました。



ホームページでも  
ご覧いただけます